
しょっぱい中年の冒険（キャバクラ編 下）

北 郷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しょっぱい中年の冒険（キャバクラ編 下）

【Nコード】

N3769L

【作者名】

北郷

【あらすじ】

はまだなかとし

浜田中年、40歳。二物どころか一物も持ち合わせていない独身中年男性であつたが、潜在的には充分なイチモツを持っていた。ある日のこと、思いつきでキャバクラ人デビューをする決意を固めたのだった。

そして、ついにキャバクラ人デビュー・・・。

（前書き）

しよっぱい中年の冒険（キャバクラ編 上）の続きです。

キャバクラ編 上 からのつづき

<今までのあらすじ>

ある日、塩分過多の独身中年男が、つまらない人生を打破する為に、キャバクラに一人デビューすることを決意した。それは、エッチな気持ちからではなく、純粹に雑談を勉強することが目的であった。

少なくとも本人はそう思っていた。

現在、やっと目指すキャバクラのあるビルの1階にあるトイレまでやって来たところである。

<宜しかったら、続きをどうぞ>

私は尿意を打破した後、早速エレベーターに乗り込みました。ひとみちゃんは8階建のビルの3階にいらっやいます。店の名は「ミニスカドール」といいます。

幸い、エレベーターに乗っているのは私一人のみです。

私は緊張を解す為に、エレベーターの背面上部に貼ってある店の名を一つ一つ読み上げてみました。

興味を魅かれる店名に迷いが生じて参ります。

しかし、ここは安全が保障されている「ミニスカドール」なのです。冒険は次への課題にしておくべきです。

最初から北斜面からの登頂は無謀過ぎます。

てなことを考えている内に、3階に着いてしまいました。
ドアが開きます。

（いかん！）

余計な事を考えていて心の準備が出来ておりませんでした。
持ち上げた右足が踏み出せずに、固まっております。決して血行が
悪いせいではありません。
動きません。

どうした、浜田。お前の決意はそんなものだったのか。頑張れ、
なかとし
中年”。

申し遅れましたが、私の名前は”中年”です。フルネームで、”浜
田中年”と申します。

叱咤してみました、私は固まったままエレベーターの扉が閉まっ
ていくのを見つめるだけでした。

エレベーターは、上へ上へと昇り出しました。

「しまった」

おどおどしている間に、エレベーターは一気に最上階の8階まで昇
ってしまいました。

本当は慌ててなどおりません。この位のこと、想定していたこと
なのです。

さて、仕切り直して下ろうと3階のボタンに指先を伸ばしたその時
にです。

何とホステスさんらしき女性が一人乗りこんで参りました。
インド人もびっくりです……。

店に入る前にホステスさんをご対面です。

咄嗟に私の口からいい訳が飛び出しておりました。

「あゝ何だ、上だったのか」

下の階に行くのを誤って、上に行くエレベーターに乗ってしまったと言う、いい訳をしておりました。

我ながら見事ないい訳です。

こうなったらしょうがありません。1階まで行くのが一番自然です。ナチュラリストとしては……。

恥しさを隠し、一度1階まで降りると、再びトイレに入りました。すぐろくのように振り出しに戻ってしまいました。

私はネクタイを締め直し、”大丈夫”とトイレの鏡に書き気持ちを作り直します。

（大丈夫、私は出来る）

気合いと共に、トイレから出ると大丈夫です。

さっきのホステスさんはいらっしゃいません。

決意も新たに颯爽と、エレベーターに乗り込みました。

その時です。

（がゝん）さっきのホステスさんが走って戻って来るのです。

そうです。たばこを買いに自動販売機のある1階に降りただけでした。

ここが素人の甘さです。衣裳のまま店を出ることの意味が分っておりませんでした。

私は、一瞬”開”を押すべきか、”閉”を押すべきか、不覚にも悩みました。

ここは、人として”開”を押すべきなのは言うまでもありません。

大丈夫です。

私は、人として大事なことを辛うじて守ることが出来ました。

ラッキーストライク1箱を手にしたホステスさんは、にこやかな顔でエレベーターに駆け込んで来られました。

何か、さっきの言い訳を笑われている気がして、小さくなってしまいます。

しかし、ラッキーストライク位は在庫しておいて欲しいものです。私は無性に腹が立って来ましたが、ここは堪えて最出発です。

エレベーターは、こんな私を乗せても機械仕掛けの様に淡々と上って行きます。

もちろん機械仕掛けだからです。

この記念すべき日に、同じ人に2度も笑われる訳にはいきません。今度こそ、右足に力を込め無理やりにも3階に羽ばたくのです。そうです。先程のホステスさんが自分を嘲笑ったことを後悔させる為にです。

「チン！チン！」

エレベーターが3階に着いた音が二度鳴りました。縁起が良過ぎです。私はちよつと躓きましたが、縁起の良さで何とか着階に成功です。

（どうだ、3階で降りてやったぞ！）

これは”しよっぱい人種”にとっての大きな一歩となることでしょう。

何だか、ホステスさんにギャフンと言わせてやった気になります。

私が満足感に浸っていたその時です。黒服さんの素早いお出迎いが待っておりまして。

何の心構えをする余裕もありませんでした。

今度は、私がギャフンです。

後は、ブラックマン（黒服）の言いなりです。

ご指名は？の言葉に”ひとみ”と言う言葉が出てきません。

指名すること自体が恥ずかしかったのもあるのですが、それ以上に、呼び方を”ひとみちゃん”と言うのか、それとも”ひとみさん”と言うのか、どちらが普通であるのか？

そこに躓いてしまったのです。

結局、（可憐な）ひとみちゃん20歳を指名することが出来ませんでした。

残念ですがこれも経験です。授業料と思って諦めます。

いや、返って指名料分が儲かったのかもしれない。

私は、ブラックマンに待ち合い室の様な所に案内されました。

以前は、こんな前室はありませんでした。店の雰囲気が変わっております。

ちよつと心細いですが、流石に5年経っています。

時代の移り変わりでもそれも止むを得ないことです。

ブラックマンは、流暢にシステムの説明を始められました。

私は、システムの説明を必至に拝聴致します。

どうも、長湯すると損なシステムの様です。

読めました！手軽な料金で客を集め、女の子の巧みなテクニクで

延長させると言う、経営者の手腕の様です。

と言うことは、ぼられることはなさそうです。ある意味健全なお店
だと言うことです。

流石に5年間持った店だけのことはあります。

以前よりも高くなっていますが、60分で出さえすれば以前と同じ
金額なのです。

何故か、以前の金額だけは覚えておりましたが、誓ってケチ等では
ございません。

私は、固く60分で帰ることを決意致しました。

システム説明の後、何故か爪のチェックをされます。

私の爪は、ブラックマンにヤスリをかけられました。さらに消毒・

意味が分りません。

ブラックマンは、次に禁止要項を快活な口調で私に説明しておりま
す。

（そんなことはしません！）

無論女の子の嫌がることをする気はありません。

私と会話することが嫌だと言うのであれば、元も子もありませんが・
・。

静かだった店内にざわめきが戻り始めると、いよいよ中に通されま
した。

ドキドキしていることを悟られないように、平常を装う演技に入
ります。

店内は、小さく仕切られており、一つのボックスには、二人が座るのが精一杯です。

5年前は、もっとオープンな造りだったはずですが、しかし、これなら人目を気にしなくてすみます。

私は、一番端のボックスに案内され、飲み物を頼みました。取り敢えず水割りにしておきました。目的は酒を飲むことではありません。あくまで会話をすることなのです。

横を綺麗な女性やら、何やらとかが何人か通り過ぎて行かれます。ここに来いと念じたり、通り過ぎれと念じたりで一喜一憂をしていると・・・ついに来ました、

（あ、あたりです！）

名前は、”風香”^{ふうか}ちゃん22歳です。某局のアナウンサー似の清楚な感じです。

白いブラウスに、ヒップラインが見事に出てしまっ、ぴったりとした黒のマイクロミニが、眠っていた感情に生気を与えます。

はつきり言ってイチコロです。

ぴったりと横に座った風香ちゃんは、無毛の天使です。

言い忘れましたが、当然かもしれませんが、手足の無駄毛が綺麗に処理されております。

店内が暗いせいか、はたまたパNSTと言う素晴らしい素材のせいなのか毛穴までが見えません。すべすべそうです。

その、その綺麗なお御脚に伸びそうになる右手を必至で左手が止めます。

そうです。右手が、右手が毛の無い脚に飢えているのです。

すみません。うそを付きました、上の頭が飢えております。

下の頭もそろそろです。

正直言つて会話どころではありあません。

取り敢えず、何か喋っている実感は自分でもあるのですが、何を言っているのか頭に残りません。

駄目です。柔らかかそうな太腿に魅了されております。

（あゝ顔を埋めたゝい）

そんな無我の境地？の時でした。

タダでさえ薄暗い明りが、静かに消えていきます。

停電かと思いましたが。そうではありません。

不自然です。静かに消える停電などはありません。まして、数個のライトだけはピンクに光っております。

それは”。。。タイム”と言う、黒服が言っていたシステムだったのです。

以前はそんなシステムはありませんでした。

せいぜい隣の女の子が脚を絡めてくるぐらいだったのです。

突然、「失礼します」と言った風香ちゃんが、私の上に向かい合わせで跨ると、自らの手で胸をはだけです。

「うぉ」

何と彼女はノーブラでした。素晴らしいことに、結構ボインです。乳輪も小さめです。

「すばらしき人生！」

後で分ったのですが、ノーブラがこの店の決まりでした。

私は、うら若き女性のボインちゃんを目の当たりにして、大小二つの頭が大興奮です。

理性ビームと、煩惱フラッシュのパワー比べが始まります。

しかし、この位の事で理性は失いません。

異常な行動は慎まなければなりません。

人として……。

人目を気にするどころか、私が人目になっています。仕切りの隙間から、周りのお客達の行為の確認です。

整いました。

”郷に入れば郷に従え”です。

（なるほど……）

どうも、郷さとに帰っても良さそうです。

何もしないのは、郷さとに魅力がないと言わんばかりです。早速、まずは風香ちゃんの先っぽに（ポチットな）。

私は、サラリーマンから、サワリーマンに変身してしまいました。
完全に”イカレポンチ”です。

60分で帰ると言う、堅い決意は何処へやら。

しつかり延長60分を追加消化し、3度のダウンタイムを堪能した
後で、やつとの思いで気持ちの整理ができました。

風香ちゃんと涙のお別れです。

なんとか、家路に着くことに成功しました。

ここから、私の人生は大きく変貌を遂げることになります。

私は風香ちゃんにグロッキーです。

教訓：

それなりの行為は、それなりの年齢に経験すべきのような気がします。
速からず遅からず。

お粗末でした。

<今日のところは、おわりです>

（後書き）

次回は、”パチンコ依存症編”を考えております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3769/>

しょっぱい中年の冒険（キャバクラ編 下）

2010年10月13日18時06分発行